

—愛する故郷・岡山をキーワードに、出会い、語り合しましょう—

私たちのまち・岡山を考える

市民のつどい2012

命と暮らしを見つめ直し、市民の願いに応える岡山市をつくろう

前夜祭
映画

監督:小林 正樹 ナレーション:蒼井 優

石原仁美プロデューサー
舞台挨拶

がんばっぺ フラガール!

～フクシマに生きる。彼女たちのいま～

9/1 土



会場: 山陽新聞社 さん太ホール

岡山市北区柳町2-1-1

時間: ①15時00分～ ②18時00分～

参加費:	前売	当日
おとな	800円	1,000円
しょうがい者	500円	600円
こども(小中高校生)	500円	600円
両日通し券(前売のみ)	1,300円	

記念講演

「ひとりひとりの命が大切にされる社会を」

講師: ^{かまた}鎌田 ^{みのる} 實さん
(医師・作家)

会場: 岡山コンベンションセンター
(ママカリフォーラム)

岡山市北区駅元町14-1



9/2 日

日程: 暮らしと地域、岡山を語り合う5つの分科会
10時00分～13時30分
全体会 14時00分～14時50分
記念講演 14時50分～16時20分

参加費: 前売800円 当日1,000円
両日通し券(前売のみ)1,300円

連絡先: 私たちのまち・岡山を考える 市民のつどい実行委員会 事務局 岡山市職員労働組合
〒700-8544 岡山市北区大供一丁目1番1号 岡山市役所本庁舎9F
Tel. (086)232-9714 Fax. (086)232-5317 E-mail: sisyoku@icity.or.jp

暮らしと地域、明日の岡山を語り合う5つの分科会

9月2日(日) 10:00~13:30 ママカリフォーラム

分科会の概要	共同討論者
<p>◇第1分科会 教育・子育てを考える ～岡山市の幼稚園・保育園はどうなるの？岡山型一貫教育って何？～ —幼い子どもの育ちのために何が必要なのか考える—</p> <p>子どもの育ちに関わるおとなたちは、子どもの育ちや学びが健やかで豊かであるようにと願っています。いま、認定子ども園などの導入で、保育のサービス化(直接契約制)など、国や岡山市で、就学前の子どもたちの教育や保育のあり方を変えようとする動きがあります。今年5月に岡山市は幼保一体を柱とする69園の市立幼稚園と53園の市立保育園の統廃合・民営化の方向性を示しました。就学前の乳幼児の育ちは、学童期にも影響を及ぼします。この分科会では、様々な立場から子どもの実態や子育て・保育・教育の現状への思いを率直に出し合い、子どもが自分らしく、伸びやかに育つために何が必要なのかを皆さんと一緒に語りあっていきます。</p>	<p>秋川 陽一 (福山市立大学 教育学部教授)</p>
<p>◇第2分科会 保健・福祉・医療を考える ～地域に築こう、いのちとくらしのセーフティネット～ —孤立化する高齢者を地域で支える仕組みづくりを考えよう—</p> <p>最近、孤独死が増加する状況にある。孤独死問題は、家族や地域との関係の希薄さから発生していると考えられている。若い時には、自分だけは、孤独にならないと思っているかも知れない。しかし、誰しも地域の社会環境の変化に伴いおこりうるのです。自分が住んでいる地域では、社会福祉協議会や、地域包括支援センターによりきめ細かく地域の見守りが行われている。しかし、その内容を知らない人も多い。また、自発的に地域に携わり、社会環境の保持を行うことが簡単に個人で行える。孤独死の問題はこうした機関や個人の活動で抑制することは可能であるといえる。</p> <p>そこで、地域を支える機関を知り、自分が地域で何ができるかについて考えてみませんか。地域のために考え、みんなのまず一歩前へ踏み出す力が、社会問題を改善させます。</p>	<p>原田由美子 (京都女子大学 家政学部准教授)</p> <p>難波 利光 (下関市立大学 経済学部准教授)</p>
<p>◇第3分科会 食と農・環境を考える ～食の安全について考える～</p> <p>企業の儲けを確保するために日本の農業を犠牲にするTPP(環太平洋連携協定)への参加が進められ、さらに放射能問題に対する政府の対応の遅れから日本の「食」に対する不安は拡大する一方です。第3分科会ではこれらの問題に対して、「食の安全」という切り口から、みんなで一緒に考えていきます。</p>	<p>坪井 貞夫 (岡山県農民連)</p>
<p>◇第4分科会 防災とまちづくりを考える ～水害に強いまちづくりを考える～</p> <p>岡山は干拓地が多く、海拔も低い地域が多い地域です。市内には旭川、吉井川の二大河川が流れており、笹ヶ瀬川や砂川なども含め天井川といわれる川を擁しています。昨年9月には岡山でも台風12号により、南区全域を含め市内の多くで避難勧告が出されました。過去に例がない広範囲への避難勧告であり、行政の初動やその後の対応など課題が明らかになってきました。食料や物資の調達方法や運搬、高齢者の避難方法など様々な課題をどう対応するか。また行政だけでは限界がある中で、市民は何をどうすればいいのか、災害に対して市民の命、自分の命を守るためには何が必要なのかなど、水害災害に対し地域的に脆弱であると言われている岡山の現状と対策についてみなさんと考えていきたいと思ひます。</p>	<p>下野 克己 (岡山大学名誉教授)</p> <p>磯部 作 (日本福祉大学教授)</p> <p>小川 孝雄 (岡山県ボランティア・NPO活動支援センター)</p>
<p>◇第5分科会 平和を考える ～岡山市の危機管理と平和～</p> <p>岡山市は東日本大震災と今年の台風被害を受けて「安全・安心の町づくり」の一環として危機管理体制の強化に取り組んでいます。「防災対策」は自然災害による被害を未然に防ごうとするものですが、政府が自治体を巻きこんですすめる「危機管理」は「武力攻撃災害」を含む「有事」や大規模事件・災害が起きたときの対処をしようとするものであり、概念が根本的に違っています。</p> <p>私たちは、これまで戦争を語り次ぐことや国民保護訓練などについて学び、「戦争する国づくり」について考え、岡山市の平和の取り組みに対する提言も行ってきました。今年は、憲法のため平和の理念と「平和で安全・安心なまちづくり」に向けて私たちができることについて考えていきたいと思ひます。</p>	<p>田中 章史 (日本原水協常任理事 ・前自治労連副委員長)</p>

前夜祭映画

監督:小林 正樹
ナレーション:蒼井 優

がんばっぺ フラガール!

～フクシマに生きる。彼女たちのいま～

9月1日(土) ①15時00分～ ②18時00分～ 2回上映
山陽新聞社 さん太ホール

2011年3月11日に発生した東日本大震災により甚大な被害を受けた福島県いわき市。地震、津波、原発事故、風評被害の四重苦にあえぐこの地で、東北のハワイとして長い間親しまれてきた大型レジャー施設・スパリゾートハワイアンズが、開業前年に行ったフラガールたちによる全国キャラバンを46年ぶりに復活させた。

1966年、常磐ハワイアンセンター(現スパリゾートハワイアンズ)が誕生。国家エネルギー政策の主軸が石炭から石油に移りゆく中で、廃れる一方の街を再生させたのは、炭鉱娘たちとそこに住む人びと、そして、炭鉱という危険の伴う共同作業の暮らしに自然と根付いていた「同じ山で働く者たちが皆で苦難を乗り越える」「一山一家(いちざんいっか)」のスピリットだった。

彼らが寒冷の地に作り上げた巨大な楽園が地元のピンチを救ったのだ。2006年に公開された映画『フラガール』でもすっかりお馴染みとなった、この設立のエピソードから46年。

——今、いわき市は再び危機に直面していた。

避難住民に一部施設を提供しながら、スパリゾートハワイアンズは営業再開に向けて動き出す。自らが被災しながらも、踊り続けることを決意し「フラガール全国きずなキャラバン」へと向かう現代のフラガールたち。あの時のように、笑顔で踊ろう。「一山一家」から「一国一家」へ。見すえる先は山を越え、彼女たちはすでに、復興への「次なる大きな一歩」を踏み出していた。

石原仁美プロデューサー
舞台挨拶



かまたみのる
全体会・記念講演 鎌田實さん

「ひとりひとりの命が大切にされる社会を」

9月2日(日) 14時50分～ 岡山コンベンションセンター(ママカリフォーラム)



鎌田實さんは、紛争地で被曝し、何の罪もない子どもたちが十分な治療を受けられないまま死んでいくという現実やベラルーシ・チェルノブイリをはじめ原発事故によって被曝し白血病になった子どもたちを救うための支援活動を通していのちの尊さを語られています。また、諏訪中央病院で取り組んでいるホスピスケアの話から末期がん患者とその家族たちのつながり、医療に携わるスタッフとのふれあいなど、聴く人の心に元気と希望をとどけてくれる感動的な講演をされています。ご期待ください。

かまたみのる
鎌田 實さん(医師・作家) プロフィール

1948年東京都生まれ。東京医科歯科大学医学部卒業後、長野県諏訪中央病院にて地域医療に携わる。1988年諏訪病院院長に就任。「住民とともにつくる医療」を提案・実践。チェルノブイリ救援活動やイラクへの医療支援に取り組み、震災後は、宮城県・福島県で医療支援活動を続けている。主な著書は「がんばらない」「あきらめない」「鎌田實の幸せ介護」「がんばらない健康法」など多数。

だれもが住んでいて良かった、住み続けたいと思うまち岡山に

～今年も「つどい」で市政と暮らし、そして地方自治を語り合いましょう～

今年で20回目を迎える「市民のつどい」は、市政全体について市民や市職員など様々な立場の人が自由に議論できる場として、年々定着してきています。

この間、子どもを取り巻く問題や、市立病院の役割やあり方、ごみ有料化問題、食の安全・安心、まちづくりなど、その時々の問題や課題を市民の問題として提示するとともに、市政へ提言することを行ってきました。そしてその中で市民全体の話題や議論になり、具体的に前進した課題、分野もあります。

また「つどい」は、各分野で活躍する人たちが集まり、議論する中で交流を深め、共に学び合うことができる場であり、個人や団体が幅広いネットワークをつくる場としても定着してきています。

消費税の増税、原発再稼働、オスプレイ配備など、住民の暮らしに関わる問題は山積みです。住民の命と暮らしを守る、自治体と自治体職員の役割を見直す必要があります。住民自治の力をいかし、市民と職員の協働で、安心して暮らせる岡山市をつくっていくために、いろんな方向から議論し、学びあう事が一層求められています。

みんなで「つどい」に集まり、市政と暮らし、地方自治を語り合いましょう。

会場案内

9月1日(土)

前夜祭：山陽新聞社 さん太ホール
(岡山市北区柳町2-1-1)
Tel(086)803-8222

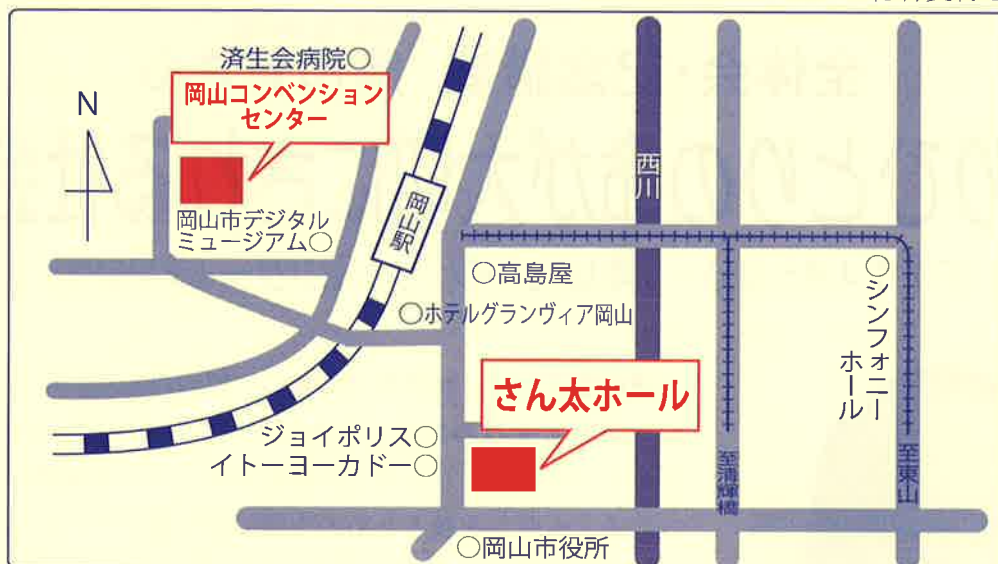
- JR岡山駅から徒歩15分(市役所筋を南へ下る)
路線バス5分(「山陽新聞社前」下車)

9月2日(日)

つどい：岡山コンベンションセンター
(岡山市北区駅元町14-1)
Tel(086)214-1000

- JR岡山駅中央改札口から徒歩3分

※1Fが総合受付となります。



※公共交通機関をご利用のうえ、ご参加ください。

ご参加にあたってのお願い

- ◆ 参加申込書を「つどい」事務局までお届けください(郵送、ファクシミリ、Eメール可)。
お返しチケットと振込用紙をお送りします。
- ◆ 前売完売の場合、当日券販売がないことがありますのでご了承ください。
- ◆ 9月2日(日)の昼食については、会場でお弁当を販売します。ご利用の方は申込書にご記入下さい。
- ◆ 9月2日(日)は、保育室もご用意します。8月24日(金)までにお申し込みください。
(保育料は子ども一人につき300円)